

社会技術研究開発事業
科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI) への包括的実践研究開発プログラム
プロジェクト企画調査 事後評価報告書

「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI) への包括的実践研究開発プログラム」
プログラム総括 唐沢 かおり

1. 課題代表者

永井 由佳里 (北陸先端科学技術大学院大学 理事・副学長)

2. 課題名

メタバースが拓く新しいサービスと ELSI に関する企画調査

3. 実施期間

2022(令和4)年10月1日 ~ 2023(令和5)年3月31日

4. 事後評価結果

プロジェクト企画調査の目標達成状況

本企画調査は、メタバースの実装技術とそれを活用した様々なサービスを対象とし、日本におけるメタバースの社会受容過程での課題を体系化し、それらの課題を解決する方策を得るために、課題の構造を明確化することを目標として実施されたものである。また、当プログラムにおけるプロジェクト企画調査として、研究開発構想の具体化とその道筋の検討、メタバースに係る国内外の技術的課題や ELSI 論点の先行知見の把握・蓄積、ELSI/RRI 研究としての、本質的な問題設定の明確化、研究デザインと主な手法の妥当性や意義の確認とそれぞれの限界や課題も含めた批判的な検討・検証、法、哲学・倫理、社会学などの研究者・チームの組み込みや連携体制の構築などの点を期待した。

企画調査の結果、メタバースという課題への現状の認識が深められており、問題設定と課題意識の明確化については一定の成果があったと評価できる。未来研究固有の困難さがある中、視座や方法論の整理が進められ、今後の計画を具体的にするなど、メタバースの ELSI 研究としてのプロジェクト提案に向けて、FS として整理すべき視点についてはある程度整理が進んだと考える。

一方、メタバース・サービスの ELSI 課題抽出に際して行った、関係者等への聞き取り調査では、ヒアリング対象の中心が行政関係者に置かれ、法学などを含む専門家からの知見に基づいた広範な課題抽出に至っているとは言いがたい。また、今後メタバースで発生しうる ELSI 課題について、国内外の技術的課題を踏まえた検討、先行知見・議論の把握と分析にも課題が残る。

メタバースの社会的受容をめざすという方向性が主軸となっているようにも見受けられるが、ELSI に関する包括的な議論に向けた基盤構築を進めることが望まれる。将来の社会や倫理のありかたに大きな影響を与える技術を対象とするテーマであり、倫理学・哲学とも連携しつつ、科学技術と人・社会との関係に関する入念な思索が期待される。

以上

(別紙) 評価者一覧

〈プログラム総括〉

唐沢 かおり 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

〈プログラムアドバイザー〉

大屋 雄裕 慶應義塾大学 法学部 教授

四ノ宮 成祥 防衛医科大学校 学校長

中川 裕志 理化学研究所 革新知能統合研究センター
社会における人工知能研究グループチームリーダー

西川 信太郎 株式会社グローカリンク 取締役
／日本たばこ産業株式会社 D-LAB ディレクター

納富 信留 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

野口 和彦 横浜国立大学 先端科学高等研究院 リスク共生社会創造センター 客員教授

原山 優子 東北大学 名誉教授

水野 祐 シティライツ法律事務所 弁護士
／九州大学 グローバルイノベーションセンター 客員教授

山口 富子 国際基督教大学 教養学部 アーツ・サイエンス学科 教授

(所属・役職は 2023 年 5 月末時点)